

地震工学委員会 平成 23 年度第 3 回拡大運営幹事会議事録

日時：平成 23 年 9 月 20 日（火） 15:00～17:20

場所：土木学会 A 会議室

出席者

小長井委員長，清野副委員長，秋山幹事長，高橋幹事，冨田幹事，濱野幹事，藤原幹事，目黒幹事（途中出席），山本幹事，吉見幹事，久世委員，竹内顧問，木全委員，田中委員，当麻委員（途中出席），能島委員，尾崎氏

配付資料

拡幹 H23-03-01	地震工学委員会 平成 23 年度第 2 回拡大運営幹事会 議事録案
拡幹 H23-03-02(1)	地震防災技術普及小委員会資料
拡幹 H23-03-02(2)	平成 23 年度「津波避難調査小委員会」活動中間報告
拡幹 H23-03-02(3)	水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会・第 1 回準備会 議事録（案）
拡幹 H23-03-03(1)	小長井委員長資料
拡幹 H23-03-03(2)	第 5 回東北地方太平洋沖地震被害調査連絡会打合せ要旨（案）
拡幹 H23-03-03(3)	FIRST ANNOUNCEMENT – One Year after 2011 Great East Japan Earthquake
拡幹 H23-03-03(4)	東日本大震災特別委員会 組織図（案）
拡幹 H23-03-03(5)	国際的な動きについて
拡幹 H23-03-04	原子力安全土木技術特定テーマ委員会
拡幹 H23-03-05(1)	国際化対応小委員会に関する趣旨提案
拡幹 H23-03-05(2)	土木学会英文論文集（JSCE Journals）の発刊のお知らせ
拡幹 H23-03-06	土木学会原子力土木委員会 津波研究成果報告会（案）

議事

1 資料「拡幹 H23-03-01」に沿って濱野幹事より説明が行われ，第 2 回拡大運営幹事会議事録（案）が承認された。なお，小長井委員長より国際化対応小委員会の趣旨について，本会議にて補足説明を行いたい旨の発言がなされた。

2 審議事項等

1) 小委員会活動状況の説明

- ・ 資料「拡幹 H23-03-02(1)」に沿って，地震防災技術普及小委員会 木全委員長より企画行事「第 11 回地震災害マネジメントセミナー」の説明がなされた。
 - 行事計画書が運営幹事会に提出されていないので，早急に運営幹事会に提出いただきたい。（秋山幹事長）→了解。（木全委員長）
 - 講演内容にタイトルをつける点，また，本行事について，建設研修センターにもメール等を利用して連絡する点を提案する。（小長井委員長）→了解。ご提案の点を対応し，早急にポスター等を作成し周知したい。（木全委員長）
- ・ 資料「拡幹 H23-03-02(1)」に沿って，地震防災技術普及小委員会 木全委員長より企画行事「東

日本大震災の経験を地震に強いまちづくりに生かすために（仮題）パネルディスカッション」の説明がなされた。本行事について、小委員会活動補助費を使用したい旨の発言がなされた。

- ▶ 行事収支は、行事に関わる収入・支出で会計を閉じるルールとなっているため、本会議にて小委員会活動補助費を利用する点について決定することはできない。再度、小委員会にて会計方法について審議されたい。（秋山幹事長）→了解。（木全委員長）しかし、市民参加型の行事であるため、会費を取ると参加状況が悪化する点が懸念されるため、そのような点に配慮いただき、運営幹事会・土木学会事務局にて検討いただきたい。
 - ▶ 本行事計画の見直しが可能であれば、平成24年3月6日に開催予定のシンポジウムのセッションを利用して行事を行うことが可能である。（小長井委員長）→現計画の見直しが可能かを考慮し、対応を決めたい。（木全委員長）
- ・ 資料中「2. その他の企画 ④」の開催日時は12月5日である。修正をお願いしたい。（木全委員長）
 - ・ 資料「拡幹 H23-03-02(2)」に沿って、津波避難調査小委員会 田中委員長より活動中間報告の説明がなされた。また、活動に際し、小委員会活動補助費の追加予算申請がなされた。
 - ▶ 11月中旬～12月上旬に小委員会活動補助費の追加・修正申請があるので、その際に、運営幹事会に申請されたい。（秋山幹事長）→了解。（田中委員長）
 - ▶ 地震工学委員会の予算・その他活動状況を考慮すると、満額の要求に応えることは困難となるかもしれないが、その点はご了承いただきたい。（小長井委員長）→了解。（田中委員長）
 - ・ 資料「拡幹 H23-03-02(3)」に沿って、水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会 竹内副委員長より準備会の議事説明がなされた。
 - ▶ 地方自治体の実務担当者にも、本小委員会に参画いただきたいと調整していたが、昨今の地方自治体の情勢を鑑みると予算の関係上、非常に厳しい状況となっている。当初の構想とは活動形態が異なる可能性もあるが仕方ないと考えている。（竹内副委員長）→了解。予算の問題であれば、文部科学省の科研費申請や、鹿島助成金への申請という手段もあるので、参考とされたい。（小長井委員長）
 - ・ 性能に基づく橋梁の耐震設計法に関する研究小委員会 高橋幹事長よりシンポジウム開催の実績報告がなされた。本行事は、約23万円の黒字となったため、次年度の小委員会活動補助費に対するインセンティブを考慮していただくとありがたい旨の発言がなされた。
 - ・ 資料「拡幹 H23-03-03(1)～(5)」に沿って、小長井委員長より、東日本大震災特別委員会の動き、6学会連絡会の状況、国際活動に関する状況説明がなされた。
 - ▶ 東日本大震災特別委員会の特定テーマ委員会としては、地震工学委員会から「原子力安全土木技術特定テーマ委員会」がエントリーされている。
 - ▶ 平成24年3月5日～6日に開催される土木学会主催シンポジウムにおけるセッションに関して、地震工学委員会主催のセッションが無いので、事務局と調整し、枠をひとつ設けていただく点の了解を得た。地震工学委員会の小委員会に、セッション企画に関する呼びかけを行

いたいと考える。なお、本セッションは一般市民向けを意図している。

- セッション案としては、BCPに関する内容も良いと考えており、その場合、昨年度で活動を終了している「地震リスクマネジメントと事業継続性に関する小委員会」の活動成果に関して、議論を行うセッションも良いと考えている。
 - ← 本セッションは、国際向け、もしくは国内向けのどちらを趣旨とされているか。小長井委員長の意向は、国際向けのセッションなのか。(目黒幹事)
 - 国際向けにこだわらない。国内向けでも良い。(小長井委員長)

- 資料「拡幹 H23-03-05(1)~(2)」に沿って、小長井委員長、高橋幹事より、国際化対応小委員会に関する趣旨、土木学会英文論文集の発刊に関する説明がなされた。
 - 国際化対応小委員会の趣旨について補足すると、小池委員は、大地震が生じた際の速報が日本語で記載されているため、海外研究者が英文のみのインターネットリンクにより情報を取得できない、もしくは、地震発生後、ある程度の時間が経過して海外の研究者が来日し作成した英文速報を、英文のみのインターネットリンクにより取得できるため、最速の速報と海外研究者に受け止められてしまう点が課題と考えている。それを解決するために本小委員会を設立した方が良いとの提案である。(清野副委員長)
 - 地震速報に関する英文論文集の査読体制を、新たに地震工学委員会の中に設けるのは人的・経済的観点から困難であるため、既存の査読システムを利用し、情報提供を行うプラットフォームを整備する方法が良いと考えられる。(清野副委員長)
 - 土木学会英文論文集との関連性も考慮し、論文編集委員会で議論したい。(小長井委員長)

- 資料「拡幹 H23-03-04・H23-03-06」に沿って、当麻委員長より、土木学会原子力土木委員会に関する活動状況、原子力安全特定テーマ委員会に関する説明がなされた。
 - 原子力安全特定テーマ委員会で議論されている内容は、下水道等の他臨海施設にも適用できる議論がなされているのか。(竹内顧問) → 現在は議論が発散すると良くないので、原子力に的を絞って議論している。結果として、他施設にも適用できる例があると考ええる。(当麻委員長)

(作成者：藤原)